



奇異雜談集  
六

18  
1790  
6



恩

13  
1790  
6

門へ達13  
1790  
64

奇異雜談集卷第六



月録



一 女人死後男と棺の心（心）（引）ゆらゆら

二 千將莫那（千將）の紙（紙）の事

三 弓馬（弓馬）の酒（酒）の事  
中湯（中湯）洞（洞）の事  
三女（三女）とつと  
隊（隊）の事  
業（業）死（死）と夜（夜）の事



奇異雜談集卷第六

一 女人死後男を楯の門へ引ぬる事



唐の正月十八日の夜、ある所の門より一むすめあり。其の形は、いさむの如くありて、門めくはゆへに男を楯の門へ引ぬる事あり。是を三下流に目とす。一年の末に天帝ありて、正月十八日と云ふ事あり。其の夜と云ふ事あり。元々ともいふ事あり。七月十八日と云ふ事あり。十月十八日と云ふ事あり。唐の正月十八日の夜、ある所の門より一むすめあり。

奇異雜談集卷第六

て天帝とす。このまゝならん。是七月香卦。十八日  
よ。鬼靈とす。このまゝならん。是七月香卦。十八日

牡丹灯記

牡丹の枝のうらぶ。花二河のひあふ

とらと灯籠よ。このまゝならん。是とぬ。牡丹

え。細のまゝ。念の聖正。年一平。凡しな。は。明列の法。の

炭のり。このまゝ。高生。このまゝ。の。あり。書と。このまゝ。ひて。登。あ

あ。て。困居。と。正月。十八。夜。よ。このまゝ。なり。は。人。これ。燈。打

籠。と。見。く。わ。ま。び。ゆ。と。く。も。高生。と。年。一。平。凡。し。な。は。明。列。の。法。の

多。く。ま。み。て。このまゝ。に。お。わ。さ。さ。ら。は。高生。の。ま。ま。り。と

る。も。人。と。ま。く。月。の。こ。わ。さ。さ。ら。は。高生。の。ま。ま。り。と

う。り。て。ぬ。影。の。牡丹。灯。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

後。よ。初。夜。の。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

あれ。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

これ。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

七。八。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

も。う。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

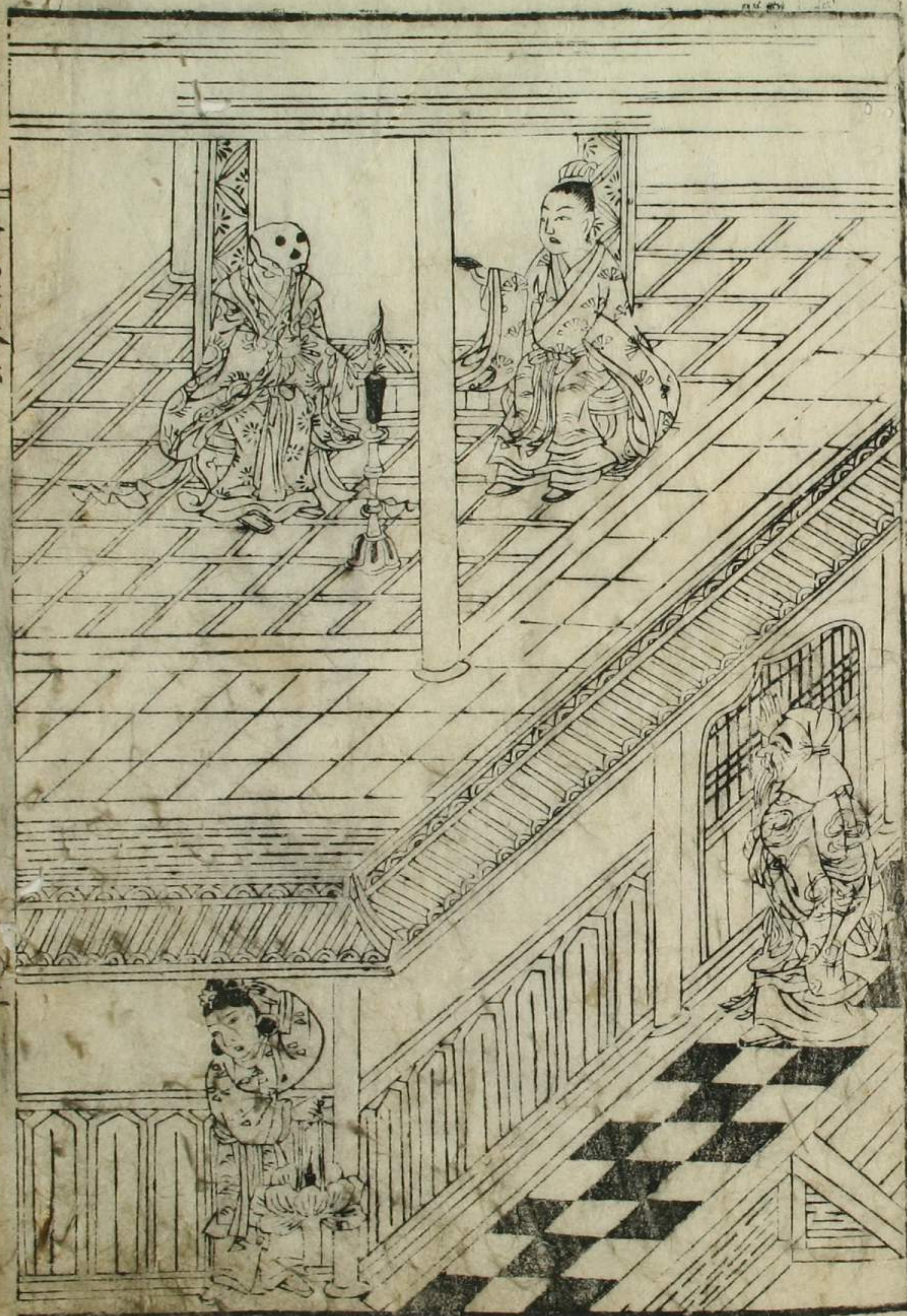
か。も。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

ひ。と。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

と。と。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

い。と。と。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と

知。の。と。と。と。見。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と。く。ま。ま。り。と



してゆく 穢れはけらるゝさうりて 命ぞりぬらんや  
 つるやしりぞ。女もれりらうもふし 髪とて右を  
 金蓮とり。牡丹灯とくげく。まじよ極くぞとれ  
 りら女乃身とらりて。我家より入る金蓮とてし  
 一乃もたに居せし。女と申。雲よ極く。つらかり。さう  
 ぶ宿の佳遇とて。怪とて。花とて。でかつる。飲祝  
 とさうり。世もふ。いふ。さう。多。情。を。り。周。よ。さ。の。姓。名。や  
 居家とて。ら。み。と。ん。女。の。い。く。姓。を。身。代。名。の。藤。御。  
 字。々。芳。叔。と。な。り。ら。故。奉。化。列。判。の。し。と。め。り。ら。と。  
 元。人。ら。や。く。さ。り。と。又。母。兄。弟。の。親。親。一。族。の。し。  
 歌。居。と。ま。ら。さ。る。世。の。縁。と。ま。ら。く。は。さ。る。か。金



東の人かといひ猿人よといふ。これちうご家あり目や  
ゆられんといふ高生遊公寺の門かへく糸乃廟  
架とゆこほくして。西乃廟架よりつりて極け  
むらうこれほくゆふよ。一の小堂わり内止極わり白  
紙よりその名とくして。賜より文より。故奉化  
符列判のびと。西廉卿の極とまき。前日双駝志  
牡丹打とけ下。一乃了鬚衆の量女とまき。と  
そのう。後日金蓮の二字みわり。高生これといん  
身の毛より。ちんごまき。けり。寺とて。後  
をくりみど。て。く。みり。み。ありのめ。これ  
家日高とらして。此か。は。り。て。く。み。を。海。あり

ゆられのう。ま。妙親の魏法師。を。改。符。付。は。真  
人の身みなり。符乃。く。く。高。時。身。一。と。ま。り。也  
ゆ。色。も。ゆ。て。是。と。り。め。よ。と。ま。明。且。日。高。生  
ま。妙親の内。日。法。を。れ。ば。法師。その。め。う。と。ん。て。か  
どう。て。い。く。妖。亂。を。い。ま。す。と。ま。り。て。あ。り。く。ほ。い  
り。つ。ん。と。て。う。ら。い。ま。す。ゆ。や。し。高。生。と。ま。り。つ。り。度  
下に。お。し。て。は。か。う。も。その。め。り。法。師。を。れ。ば。法師。来。乃  
符。二。は。う。と。ま。り。も。く。と。ま。り。は。日。と。ま。り。は。高。生。と。ま  
し。と。ま。り。は。湖。を。高。生。と。ま。り。は。高。生。と。ま。り。は。高。生  
し。と。ま。り。は。高。生。と。ま。り。は。高。生。と。ま。り。は。高。生。と。ま。り  
と。ま。り。は。高。生。と。ま。り。は。高。生。と。ま。り。は。高。生。と。ま。り



あきつ二日月あかりたり。喬生知事にうらていづく  
られ。衣練橋乃あかり。ゆきそ。友ととりん。そのい  
そのら。敷目喬生とみだれ。おまその久く。う  
らざろ。こととわや。ーんて。衣練橋乃あは。ゆきそ  
そのとの家と。いん。友のう。喬生敷目。それゆ  
あに。い。酒との。い。う。遊。寺。み  
と。ゆ。と。み。く。その。ら。あ。く。だ。ら。の。お。ま。お。ま。お。ま  
を。酒。よ。い。て。舞。法師の。い。先。と。い。て。又。お。ま。お。ま  
ま。ゆ。や。い。て。い。く。お。ま。の。門。は。入。西。廊。と。ゆ。き。ゆ。き  
せ。古。堂。の。内。は。極。あ。り。あ。ら。う。の。あ。ら。う。衣。の。裳。は。に  
お。ら。り。是。喬。生。が。裳。う。く。と。う。一。里。う。ら。極。の。ち。白。紙

まうけろ。あ。う。て。に。喬。生。が。あ。ら。う。び。お。ま。お。ま。乃  
牡丹。好。と。け。童。女の。う。け。は。よ。金。蓮。の。二。の。あ。ら  
乃。ま。お。ま。の。う。け。は。よ。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま  
お。ま。お。ま。の。う。け。は。よ。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま  
死。し。て。う。け。は。よ。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま  
女の。う。け。は。よ。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま  
は。奉。化。列。辨。符。君。の。い。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま  
極。よ。お。ま。お。ま。の。う。け。は。よ。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま  
あ。ら。う。の。う。け。は。よ。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま  
年。や。ら。お。ま。お。ま。の。う。け。は。よ。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま  
らん。と。い。は。お。ま。お。ま。の。う。け。は。よ。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま。お。ま

形を西門乃亦もどしてうけむるのら空の  
子ゆめ月ものらしておぼくは高生と女との  
もつとくもあづくわらう一乃千敷双しの牡丹  
そととくげしてさかみらむとほくとみまありをよ  
わりのいさるりら新痛とえてを樹大津来といの  
もくくともあつく一奈も半體とりのくとれぬ  
いゆもまもえづるやのまんとりさうりり生不れ  
あゆもゆめれくまぬ親もまひゆそ魏法師  
もわよとこれとりのよれぬ法師のうくもる  
そとこの邪氣のつらうさうららとくは  
つらうららとくまわたり我もあまわははく

殊冠道人とく人わりやめ山乃つてれも病を  
かもんらうめして鬼神とくもくとまららぐと  
とくもつてこれとくもつてとらられ山乃  
はさ書有とくもつてとくもつてとくもつて  
山のつてれもつてこれとくもつてとくもつて  
人凡もつてとくもつてとくもつてとくもつて  
とらありなれ病下もつてとくもつてとくもつて  
と東のゆくとけれぬ道人のうく山林の法生  
まゆ死とんづとんぞとくもつてとくもつて  
やうらとくもつてとくもつてとくもつてとくもつて  
病のいづくもつてとくもつてとくもつてとくもつて

法師ごうとゆふさうらあがりつらうらなびりてか  
らあつらあつらうらうらうらうらうらうらうら  
事六十年かりりまま妙観の小み流たははを  
とひくもははとらうらうらうらうらうらうら  
とらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
門乃おもつらうらうらうらうらうらうらうら  
とのへく思度と存とくさそしおまともけはうらう  
らに存のほうらうらうらうらうらうらうらうら  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
ひかりおうらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

トにうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
し道人乃今とらうらうらうらうらうらうら  
か命としてうらうらうらうらうらうらうら  
人氏とらうらうらうらうらうらうらうらうら  
とらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
し吏とらうらうらうらうらうらうらうらうら  
三人とらうらうらうらうらうらうらうらうら  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
伏しうらうらうらうらうらうらうらうら  
はうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ど乃人と吏と。さうしてうらり。聖目流せいもくに  
ふふのわりて。謝かきんと。あき。あき。あき。あき。あき。  
アそなる人。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。  
とれし。唾つばめして。抱かかり。あき。あき。あき。あき。あき。  
洪こう冠かん通つう人の。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。

二 干将莫邪かんじやうもくげの事

干将莫邪かんじやうもくげ。祖庭そてい事こと苑えんか。ん。ん。ん。ん。  
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。

金かねいりて。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。  
將しやうよ。令しやう。一いっ。一いっ。一いっ。一いっ。一いっ。一いっ。一いっ。一いっ。一いっ。一いっ。  
法はふの。め。ん。か。り。干将かんじやう。と。り。ち。の。洪こう。を。り。つ。く。ぬ。  
奴ぬと。は。く。ら。一いっ。と。雌めい。の。人ひと。事こと。乃すなは。奴ぬと。は。く。ら。法はふ  
か。り。奴ぬと。は。く。ら。一いっ。と。雌めい。の。人ひと。事こと。乃すなは。奴ぬと。は。く。ら。法はふ  
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
と。この。内うち。め。し。て。ぬ。一いっ。と。雌めい。の。人ひと。事こと。乃すなは。奴ぬと。は。く。ら。法はふ  
く。群ぐん。は。か。ら。つ。つ。長なが。く。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
二。の。わり。は。奴ぬと。は。く。ら。一いっ。と。雌めい。の。人ひと。事こと。乃すなは。奴ぬと。は。く。ら。法はふ  
りの。わり。は。奴ぬと。は。く。ら。一いっ。と。雌めい。の。人ひと。事こと。乃すなは。奴ぬと。は。く。ら。法はふ

紐わらぶーらしたむとぶーと千将ともつらそのこ  
 ろうぶべさーらばちのて雄奴ともつらそのこ  
 うーらの内もくーらみらうせうかゆゆり  
 我高の真那もつらとささささささささささささ  
 じの時れとさうとぶーとつらう待一角とさささのこ  
 とささささささささささささささささささささ  
 徳人々の病とみらにむじらげえど侍の文も回  
 目も小く南山有松 松生於石 汎在其中  
 とささのらもそのみせうとを眉間人ともげくもさ  
 一西人々々者ささささささささささささささささ  
 又さささささささささささささささささささささ



あはれまはさるるわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの

くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの  
くすくすのわなをみくすくすくわりの









しれく壹の四もわらしてびるしとびらとばが  
さふよめぬころ氣色好のぞとさくさくしとば  
してはばりよは涼山ちのりりやあづりしとわ  
らんざうつてさめと鬼神あんやめしとく  
盗人のわらうこころも梁もわたりてぞのあしあを  
うらみ渡史めしてはよとんとんで二のさしびとく  
あくざらよみらむてく商人さくの頂の二山の冠  
とらわくし一妻たり袖玉の帯も高の人のく  
正宗前よよのく度と後志十餘寄とあく共  
具とりて渡下もほろりわらわしとくみなに  
様のみひりあにまお生邪魅とくともとて

腰のられ葛ととりてうはらうかすかもわわく  
らまの一面は度しとらりの肘膝よあくらを  
とくさうくくを渡志一度は逆縁とゆくあや  
らうとさく後とらひとめしてさくまよとくま  
生り移してわく渡もひはとぞ小秋あけぬぞ  
乃のさくたれし血のほとしてひりくくおよさ  
路よとくひくくもさくまよめられとくしめ  
と山の南りつゆま又甲もよとんとんと一のや  
さかんたわり血乃わく穴よ入まお生わのまに  
のぞんでたよのまけをまよとくまよのけむ  
らうましてさくくくあふよあといひとめりし









いり金玉のめぐひとありて。そのせむぐやんよとらり。  
 およせむぐいづくさんぐくもそも祓毎とがとぐとぐ。  
 ぞとらりつらくもよわきむらやと。白衣ののいづく。  
 岩ありとぐめ百葉ぐれとぐも八百葉とくとりて。  
 歌とらくとわくつととらりに群後母とくとらるる。  
 ざつ後母とぐとらるる人ともぐらとぐとらるる。  
 とらるる人か若とえよとらるる人か若とらるる。  
 およせむぐとわくさんか若と人か若ととらるる。  
 不きんやとらるる人か若と人か若ととらるる。  
 けとらるる。洞と中湯とらるる。いづくの後いづくの。  
 や白衣のとらるる。後とらるる。中らのめぐひあり。

松入りおとせりてりりく羨るるりりくも我  
この回亭にわきまありませむとくすあり  
てらにゆりつりつりつりつりつりつりつり  
いひつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
りつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
平のゆりつりつりつりつりつりつりつりつり  
同とゆりつりつりつりつりつりつりつりつり  
荒れつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
うつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
とつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
とつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
とつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

とつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
りつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
りつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
二女乃ちつりつりつりつりつりつりつりつり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
とつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

奇異雜談集卷第六終

孟春穀日

江都富野治在衛門 繡

京上茨木多左衛門 梓

泉齋  
小川  
柳枝  
書林  
于同  
存節





